

うに郷通信

No.144
令和3年(2021)7月

発行：宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

いる、いる！ 飛んでる、飛んでる！

コロナ禍の中ではありましたが、今年も6月5日(土)と6日(日)の両日に油谷川ホタル観察会を行い、両日で40人を超える参加がありました。

今回は“曇りがちで風のない、生暖かい夜”というホタルが飛び交う数年ぶりの絶好の条件となりました。

高月橋上流から大歳橋下流まで連続して飛び交う様子に歓声があがります。手元にとまってくれたホタルの光にじっと見入る姿は印象的です。ひとりひとりの思い出に残ってくれるでしょうか。

6日に参加されたNさん家族は、最近帰って来てくださいました。子どもさんは、油谷川の随分手前から「いる、いる！ 飛んでる、飛んでる！」と駆け出さんばかりです。お父さんのふるさとを大好きになって下さい。

この間、何年もホタルの幼虫の餌になるカワニナを提供して下さった黒崎忠彦さんに感謝です。寒い2月、川の清掃をして下さった各町の皆さんに感謝です。

この4月、宇仁小学校に着任された菅野裕之校長先生、渡邊雅美教頭先生、ご参加ありがとうございました。

(里山・川環境整備部会)



花植え・清掃活動を実施しました

5月16日(日)、地域の子どもの学童預かり保育の拠点である旧宇仁幼稚園の花植え・清掃活動を実施しました。後日、子ども達や校長先生にきれいになった園庭を見て喜んでいただきました。

この度は、緊急事態宣言下ということもあり、広くアナウンスをせず、参加者のディスタンス等にも配慮して実施しましたが、ご参加いただきました皆さんありがとうございました。



(子育て支援センター)

7月の宇仁ふれあいバス運行日についてのお知らせ

宇仁地区の皆様には「宇仁ふれあいバス」について、ご利用・ご支援をいただきありがとうございます。

さて、今年の年初カレンダーには記載されておりませんが、東京オリンピックの開催に伴って7月の休日が変わっていますので、宇仁ふれあいバスの運行日も変更されますのでお知らせします。ご利用の際は運行日の確認をお願いします。

【運行する日】

7月19日(月) 小印南線を運行します

【運休する日】

7月22日(木) 海の日 で休日のため運休します

7月23日(金) スポーツの日 で休日のため運休します



(宇仁ふれあいバス部会)

宇仁小学校の思い出 ④ ～宇仁小最高!!～



こじんまりした古い校舎、運動場も少々手狭ま
児童数は少ない方から市内でトップ
でも、緑いっぱい、空気がきれい
何よりも子ども達は素直で元気いっぱい
地域も最高!!
宇仁小での思い出は、いいことづくめ



退職後 13 年経過しました。まず思い出すのは、子ども達の元気な声、のびのび生き生きと自主的に活動する姿です。

感動的だったのは、「さつまいも祭り」。班ごとに、さつまいもを使って何を作るか相談し、手順を決め、役割分担してスタート!! お見事でした。

PTA の皆様のさつまいも料理もすばしかったです。さすが大人!! 子ども達に負けてはならじとばかりに、試行を繰り返す……熱意が伝わってきて、とても嬉しかったです。どれも美味で好評で品切れ続出、嬉しい悲鳴をあげました。

地域からも大勢の方が参加して盛り上げて下さいました。地域との一体感を感じ、この地域あつての宇仁小だと実感しました。各種行事の一つ一つを数えあげればきりがありませんが、本当に充実していました。

宇仁小は、少人数なので小回りがきくということもありますが、子ども達の動きが実に素早い!! 次に何をすべきかを自ら考えて行動しているのです。まさに「生きる力」を確実に身につけていったなと思います。

地域の皆様の動きも速かったように思います。下校時の見守りをお願いしたとき、あつというまに 100 人以上の方々が手を挙げて下さいました。地域の子どもは地域で育てようという意識の高まりを感じ嬉しく思いました。本当にありがとうございました。

宇仁小の皆さん、これからも応援していますよ。

(H18.4.1～H20.3.31 校長 前田加代子)

宇仁郷のあゆみ 第一章 宇仁郷の黎明期④

国鉄加古川線の誕生

加古川線は、「播州鉄道」が大正 2 年(1913)加古川駅より旧の西脇駅を開通させたのが始まりで、目的は高瀬舟による加古川舟運から鉄道への輸送転換でありました。その後、野村駅(現在の西脇市駅)から福知山線の谷川駅に延伸し、高砂・北条・三木・鍛冶屋支線を開通させ「播丹鉄道」の時代を経て昭和 18 年(1943)国有化されました。この時代は輸送力増強が叫ばれ、各駅に穀物倉庫が立ち並び米穀の貨車輸送が始まり、西脇駅には機関区が出来、加古川～谷川・鍛冶屋間の直通運転の過密ダイヤの中、蒸気機関車(SL)が長い編成の貨車や客車を力強く牽引している姿は加古川線の隆盛の時代の象徴でありました。

しかし、増大する国鉄の債務処理と合理化を進めるために、「特定地方交通線の廃止」が打ち出され、高砂・三木・鍛冶屋支線は廃止となり、北条支線は第 3 セクターが運営する「北条鉄道」として残りました。

一方、自動車輸送の波が押し寄せ、バイク・マイカーの普及と貨物はトラック輸送と競合し、昭和 47 年(1972)には貨物輸送からの撤退と共に加古川線から蒸気機関車の姿は消え、旅客輸送はディーゼルカーに変わり時間短縮が図られましたが、旅客は期待するほど伸びず昭和 62 年(1987)4 月 1 日には国鉄の分割民営化により、加古川線は国有鉄道から民営の西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本)の路線となりました。



C-12 型蒸気機関車